

文京学院大学を退職するに当たって

—感謝の言葉—

野 口 昇



ボコバ・ユネスコ事務局長との会談（2012年10月11日、パリのユネスコ本部）

本年3月をもって文京学院大学を退職することになりました。

2001年4月に文京学院大学に採用していただき、以来、今日まで、12年間の長きにわたり、実に多くの先生がた並びにスタッフや事務担当の方々に本当にお世話になりました。親身にご指導くださり支えてくださった皆様方に、先ず、心から厚く御礼申し上げます。

特に、島田 燐子文京学園理事長・前文京学院大学学長には、何とお礼を述べたらよいのか分かりません。私を温かく文京学院大学に受け入れてくださり今日まで多々ご指導を賜りました。このご恩は決して忘れることはありません。

思い起こせば、2001年3月末日で、国連職員としての定年を迎え、ぎりぎりまでユネスコ北京事務所長として働き、あわただしく帰国。日をおかずに、文京学院大学に奉職させていただいたわけですが、4月初めの仁愛ホールでの入学式に参列した時の感激は今でも鮮明に蘇ってきます。

同2001年6月には、はからずも日本ユネスコ協会連盟理事長をおおせつかり、また、文部科学省の日本ユネスコ国内委員会委員、ユネスコ本部コンサルタント、国立文化財機構外部評価

委員、早稲田大学ボランティアセンター客員教授、日本私立大学協会国際交流委員会委員、三菱UFJ環境財団理事など、多くの役職を兼ねることになり、今日まで、懸命に多忙な毎日をごすごしてきました。

しかし、私にとって、最も大切な仕事は文京学院大学で学生達と一緒に学ぶことでした。

幸い、多くの意欲的な学生達に囲まれ私なりに全力投球してまいりました。授業の準備、教室での授業、毎年の海外フィールドワーク実践、毎年の文京祭でのゼミ研究発表、卒論指導などにおいて、今日まで継続してきたユネスコ関係の仕事や経験を役立てることも出来たのではないかと考えています。

文京学院大学は、島田理事長の卓越した指導力と先見性、そして川邊学長の統率力と牽引力の下に、ゆるぎない基盤の上に、さらに輝かしい発展の時を迎えていると確信します。

最後に、お世話になったすべての方々に重ねてお礼を申し上げ、そしてエールを送ります。

Vive Bunkyo!

個人調査書

履 歴 書							
氏 名	の ぐち のぼる	野 口 昇	①・女	生年月日	昭和 14 年 3 月 31 日生	本籍地または国籍	岐阜県
学 歴							
年 月	事 項						
昭和	36 年 3 月	東京大学教育学部卒業 (教育学士)					
	44 年 7 月	University of Pittsburgh 大学院夏期コース (国連フェローシップによる留学・終了証書取得)					
	～ 8 月						
	35 年 10 月	国家公務員採用上級甲種 (行政) 合格					
	44 年 6 月						
	～ 11 月	国連フェローシップ受領 (米・英に留学。教育行政研究)					
職 歴							
年 月	事 項						
昭和	36 年 4 月	文部省社会教育局社会教育課					
	38 年 4 月	日本放送協会 (NHK)					
	40 年 6 月	文部省日本ユネスコ国内委員会事務局教育課					
	43 年 5 月	文部省日本ユネスコ国内委員会事務局科学課科学研究係長					
	44 年 8 月	文部省日本ユネスコ国内委員会事務局科学課科学振興係長					
	46 年 5 月	UNESCO 本部 (パリ) 教育局プログラム専門官 (5年間勤務、主にアジア・アラブ地域の教育プロジェクトを企画・実施)					
	51 年 4 月	文部省人事課専門員					
	51 年 6 月	文部省学術国際局企画連絡課課長補佐					
	55 年 7 月	文部省学術国際局学術課課長補佐					
	56 年 4 月	文部省学術国際局ユネスコ国際部企画官					
	59 年 7 月	文部省学術国際局企画官 (課長補佐・企画官の 10 年間にわたり、日本のユネスコへの協力の基本政策を立案。この間、ユネスコの総会・執行委員会・文部大臣会議等ほとんど全ての主要会議に出席。文部大臣や執行委員のスピーチを起草。文部大臣・次官の通訳。これら国際会議では多くの調整・起草委員会に参加して積極的に発言・貢献。)					
	61 年 5 月	国連大学勤務 (特別連絡担当官として、大学本部ビル建設、日本との学術協力などを推進)					
平成	元年 12 月	日本学術振興会事業部長					
	4 年 7 月	文部省大臣官房付					
	4 年 9 月	UNESCO 本部 (パリ) フェローシップ・機材調達部長 (5 年間勤務。3 つの課を総括。この間、新規事業のユネスコ・フェローシップ・バンク計画を企画し、軌道に乗せる)					
	9 年 3 月	UNESCO 北京事務所長、中国・モンゴル・朝鮮民主主義人民共和国へのユネスコ代表を兼ねる。 (北京に赴任以来、この 3 ヶ国において、ユネスコの教育・科学・文化の多様な事業の発展に貢献。北京事務所英文年報を創刊、ほかに多くの英文出版物を編集・刊行。北京大学でユネスコについて講演 3 回)。テレビのインタビューに応じ、また、雑誌に寄稿。)					
	12 年 8 月	文部科学省教員資格審査 文京女子大学外国語学部教授 「Conference English」「国際文化協力」「国際関係論Ⅱ」「地域研究Ⅱ(アジア)」「ゼミナール」「卒業論文」					
	13 年 4 月	文京学院大学外国語学部教授 (平成 24 年 3 月まで) ※平成 15 年 4 月文京女子大学より文京学院大学に校名変更					
	13 年 6 月	社団法人日本ユネスコ協会連盟理事長 (現在に至る)					
	14 年 3 月	文京学院大学副学長 (平成 24 年 3 月まで)					
	14 年 4 月	早稲田大学客員教授 (ボランティアセンター) (平成 19 年 3 月まで)					
	14 年 12 月	文部科学省・日本ユネスコ国内委員会委員 (平成 22 年 11 月まで)					
	17 年 4 月	文京学院大学外国語学部長 (平成 19 年 3 月まで) 学校法人文京学園評議員 (平成 24 年 3 月まで)					
	13 年 4 月	日本私立大学協会国際交流委員会委員 (平成 25 年 3 月まで)					
	14 年 4 月	独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会委員 (平成 24 年 3 月まで)					
	20 年 5 月	学校法人文京学園理事に就任 (平成 24 年 5 月まで)					
	21 年 4 月	文京学院大学外国語学研究所委員長 (平成 23 年 3 月まで)					
	24 年 4 月	文京学院大学特任教授 (平成 25 年 3 月まで)					
	17 年 4 月	文京学院大学国際交流センター長 (平成 25 年 3 月まで)					

年 月	事 項
平成 14年 4月～ 19年 3月 14年 4月～ 18年 3月 13年 6月～ 25年 3月 15年 7月～ 25年 3月	<他大学等における職歴> 早稲田大学客員教授(ボランティア・センター) 工学院大学評議員 日本私立大学協会国際交流委員会委員 日本私立大学団体連合会国際交流委員会委員
13年 12月～ 22年 11月 14年 4月～ 24年 3月 23年 10月～ 25年 3月	<文部科学省関係> 日本ユネスコ国内委員会委員(再掲) 独立行政法人 国立文化財機構外部評価委員(東京文化財研究所外部評価委員から継続)(再掲) 私費外国人留学生学習奨励費給付制度成果検証委員会委員
13年 6月～ 現在 13年 9月～ 現在 14年 3月～ 22年 3月 現在	<公益法人等への貢献> 公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟理事長(再掲) 公益財団法人 日本ユニセフ協会評議員(再掲) 公益財団法人 ベルマーク教育助成財団評議員(再掲) 財団法人 全日本社会貢献団体機構筆頭理事 公益財団法人 三菱UFJ環境財団理事 公益財団法人 文化財保護・芸術研究助成財団理事 公益財団法人 ユネスコ・アジア文化センター顧問
平成 13年 4月	<UNESCO 本部への貢献> UNESCO 本部(パリ) コンサルタント(国連パスポート所持,平成 21年 9月まで)
平成 15年～現在 平成 15年～現在	<国際ユネスコ関係団体への貢献> 世界ユネスコ・クラブ協会連盟 役員 アジア地域ユネスコ・クラブ協会連盟 事務局長
学 会 及 び 社 会 に お け る 活 動 等	
年 月	事 項
昭和 52年 2月 平成 8年 7月 9年 6月 16年 10月	<主な出版物> 「外国に行く教師の英会話～国際会議の常識～」共 ユネスコ・アジア文化センター 「ユネスコ 50年の歩みと展望」単 シングルカット社 「パリ 四季と生活」単 高山市民時報社 「多文化共生社会の実現に向けて」単 文京学園創立 80周年記念論文集
資 格 罰	
年 月	事 項

賞 罰								
年 月		事 項						
		賞罰共なし						
職 務 の 状 況								
勤務先	職 名	学 部、学 科 等 (所属部局) の名称	担当授業科目名	毎週担当授業時間数				備考
				専任	兼任	兼任	計	
文京学院大学	教 授	外国語学部	国際関係論Ⅱ、 Conference English 国際文化協力 他	7			7	
文京学院大学 大学院	教 授	外国語学研究科	国際文化協力研究			1	1	
早稲田大学	客員教授	ボランティアセンター	公開講座、 海外研修			*	*	(平成 14 年 4 月～ 平成 19 年 3 月)
上記のとおり相違ありません。								
野 口 昇								

教育研究業績書

野 口 昇

教育上の能力に関する事項	年 月 日	概 要
<p>1 教育方法の実践例 (内容方法の工夫) 国連機関ユネスコにおける長年の勤務の活用</p> <p>理事長を務める(社)日本ユネスコ協会連盟との提携</p> <p>インターンシップでは、私が理事長を務める(社)日本ユネスコ協会連盟の特別活動に参加させ、ユネスコに関する実務体験の機会を与えてきた。</p> <p>国際交流センター長としての仕事と留学制度の整備・拡充</p> <p>平成15年度からは、米国ミネソタ州所在の提携大学との本格的なセメスター交換留学を開始し、本学の学生を派遣するほか、米国などから20名の外国人留学生を半年間受け入れ、英語による授業を実施している。</p> <p>早稲田大学ボランティア・センター客員教授の仕事との連携</p> <p>卒業指導</p>	<p>平成13年度から</p>	<p>長年にわたり勤務した国連の専門機関ユネスコでの経験を生かして、国連やユネスコの活動と日本の貢献について、幅広い観点から、関連科目とゼミで指導し、研究の指導を行ってきている。</p> <p>特にゼミ(国際文化協力研究)では、国連やユネスコの英文資料を使用し、学生の英語の実践能力の涵養に努めてきている。</p> <p>文京学院大学においては国際交流センター長として、海外留学制度の整備と交換留学事業の拡充を行ってきた。</p> <p>平成14年から、早稲田大学ボランティア・センターで客員教授を務め、毎年、早稲田大学の学生を発展途上国への実地研修に引率してきた。平成16年度には、文京学院大学の学生もインドへの実地研修に参加させた。</p> <p>平成17～19年度も実施。</p> <p>ゼミでは、卒業指導を意欲的に進め、外国語学部第1期生から卒論を完成している。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書 「ユネスコ50年の歩みと展望」(単著)</p> <p>「ユネスコ30の質問」(共著・編集責任者)</p> <p>「多文化共生社会の実現に向けて」</p>	<p>平成8年7月</p> <p>平成16年6月</p> <p>平成16年10月</p>	<p>ユネスコの概論と50年の通史。本書は、日本で初めてのユネスコ概説書となっている。(日本図書館協会及び全国学校図書館協議会の選定図書)。</p> <p>ユネスコに関する最新情報を取り入れた入門資料・概説書</p> <p>文京学園創立80年記念論文集に掲載。ユネスコの文化活動を中心に論述。</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</p> <p>文京女子大学緊急特別シンポジウム 『グローバル化の明と暗 -国際危機と日本の課題-』</p> <p>港ユネスコ協会主催国際シンポジウム「NGOは国際教育支援に何をすべきか」</p>	<p>平成13年10月</p> <p>平成20年2月</p>	<p>講演会とパネルディスカッションにおいて講師及びパネリストとして発表。</p> <p>明石康氏のモデレータのもと、パネリストとして参加</p>

教育上の能力に関する事項	年 月 日	概 要
<p>4 当該教員の教育上の能力に関する大学等の評価</p> <p>学生による授業評価とゼミへの応募</p> <p>なお、過去、定員を大幅に上回るゼミの応募者がいた。</p> <p>米国の提携大学からの評価</p>	<p>平成15年秋</p>	<p>学生による授業評価は、概ね好評であるが、なお一層学生のニーズに合わせ、かつ、学生の能力向上をめざして創意工夫を重ねていきたい。</p> <p>米国の提携大学 (Saint John's University) から、学長及び副学長が来日し、米国学生対象の英語による授業を参観した。</p>
<p>5 実務家教員についての特記事項</p> <p>・外務省主催の国際公開シンポジウム「『To Protect the Cultural and Natural Heritage of the World』文化遺産・自然遺産 –世界遺産を守るために–」</p> <p>・「UNESCO International Symposium on the Silk Roads 2002」</p> <p>・ユネスコ本部主催「ユネスコ創設 60 周年記念シンポジウム」(60 ans d'histoire de l'UNESCO)</p> <p>・世界ユネスコ協会・クラブ大会</p> <p>・アジア・ユネスコ協会役員会</p> <p>・ユネスコ主催「アジア太平洋地域ユネスコ協会・クラブ会議」</p> <p>・世界ユネスコ協会・クラブ大会</p> <p>・アジア・ユネスコ協会役員会</p>	<p>平成11年3月18日</p> <p>平成14年11月18日～20日、中国・西安</p> <p>平成17年11月パリ</p> <p>平成19年7月アテネ</p> <p>平成19年9月山口市</p> <p>平成19年11月バンコク</p> <p>平成23年8月ベトナム、ハノイ</p> <p>平成24年5月カトマンズ</p>	<p>モデレーターを務めた。</p> <p>主たる責任者として実質的に企画・実施した。海外から 60 名ほどの専門家が出席。最終日の全体会議でコーディネーターを務め、英文による西安宣言をとりまとめ、これを国連事務総長およびユネスコ事務局局長に提出。</p> <p>世界各国から専門家が招聘された記念シンポジウムに招かれ、日本の民間ユネスコ運動の歴史と活動について発表。</p> <p>同世界大会で、日本ユネスコ協会の歴史と活動について発表。また、役員選挙の責任者も務めた。</p> <p>同アジア役員会で議長役を務めた。</p> <p>ユネスコ主催のアジア太平洋地域会議にゲスト・スピーカーおよび議長として招かれ、発表と司会役を行った。</p> <p>会長選挙管理委員長を務めた。</p> <p>実質上の議長役を務めた。</p>
<p>6 その他教育活動上特記すべき事項</p> <p>7 学生による授業評価に基づく教育方法の改善</p> <p>なし</p>		<p>学生による授業評価は、概ね好評であるが、なお一層学生のニーズに合わせ、かつ、学生の能力向上をめざして創意工夫を重ねていきたい。</p>
職務上の実績に関する事項	年 月 日	概 要
1 資格、免許		なし
2 特許等		なし
3 実務家教員についての特記事項		上記 1-5 参照
4 競争的研究費の獲得		なし
5 学内共同研究		なし

<p>6 海外出張・調査等 <長期> <短期></p>	<p>平成13年～現在 平成13年3月 平成13年4月 平成13年9月 平成14年3月 平成14年9月 平成15年4月 平成15年9月 平成15年9月 平成16年9月 平成16年3月</p>	<p>年1回、(株)日本ユネスコ協会連盟理事長として、毎年多くのアジア諸国に出張し、同連盟の寺子屋事業等の推進を計っている。</p> <p>毎年、平山郁夫ユネスコ親善大使に同行しユネスコ主催親善大使会議(パリ本部)に出席。 平成14年3月から平成21年にかけて毎年出席</p> <p>毎年、平山郁夫ユネスコ親善大使と共に、ユネスコ代表として北朝鮮を訪問。同国の高句麗壁画古墳のユネスコ世界遺産登録を支援。同遺跡保存のための研究所設置を支援した。 平成14年4月から数年にわたる。</p> <p>ユネスコ・コンサルタントとして、毎年のユネスコ主催東アジア子供芸術祭に参加。栗原小巻氏も毎回参加。(北京) 平成14年8月(福岡)から平成24年まで。</p> <p>本学学長に同行し、海外提携大学を訪問(オタゴ大学、モナッシュ大学他)</p> <p>ユネスコ代表として、隔年秋に開催されるピョンヤン国際映画祭に出席。日本から参加した山田洋二監督、日活会長等と懇談。</p> <p>米国の提携大学(Saint John's University)を訪問。交換留学等に関して協議。</p> <p>学長に同行し、マレーシアのマラ工科大学を2度訪問。交換留学の協定を締結。(2度目は平成16年3月)</p> <p>早稲田大学客員教授として同大学学生をベトナムへの現地研修に引率</p> <p>早稲田大学客員教授として同大学及び文京学院大学の学生をインドへの現地研修に引率 (平成17-19年度も実施)</p> <p>平成16年度から上記連盟ではアフガニスタンのパルミアンに文化財研究センターを建設。アフガニスタン情報文化大臣と契約を交わし、ユネスコの協力の下に同センターの完成を目指した。</p>
<p>7 社会貢献活動等 公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟理事長としての活動 ユネスコ本部コンサルタントとしての活動</p>	<p>理事長として、日本全国300ほどのユネスコ協会の連合組織である協会連盟の活動全般の管理、主要政策の策定と実施を行う。毎年のユネスコ全国大会、年次総会、年4回の評議委員会及び理事会で議長役を務める。</p> <p>主要事業としてアジア各国でユネスコ寺子屋事業(識字教育)を実施</p> <p>世界遺産関連事業として年報の編集及び作成。アフガニスタンのパルミアンで文化財保存センターを建設。</p> <p>毎年、全国9ブロックで、研究集会を開催。</p> <p>毎年、ユネスコ主催で開催される東アジア子供芸術祭に日本の児童演劇グループを引率して参加。(これまで、北京、福岡市、韓国で開催。平成17年度は、マカオで開催。24年度まで開催)</p> <p>平山郁夫ユネスコ親善大使に同行し、毎年パリで開催されるユネスコ親善大使会議に参加。</p> <p>ユネスコの代表として、毎年、北朝鮮の春季芸術祭に参加。同時に、高句麗壁画古墳の保存と世界遺産登録に尽力。</p> <p>ユネスコ主催の東アジア・ユネスコ国内委員会会議に参加。</p>	

<p>早稲田大学客員教授としての活動</p> <p>文部科学省・日本ユネスコ国内委員会 委員としての活動</p> <p>日本私立大学協会国際交流委員会委員、日本私立大学団体連合会国際交流委員会委員の活動</p> <p>財団法人ユネスコ・アジア文化センター理事としての活動</p> <p>財団法人日本ユニセフ協会評議員の活動</p> <p>財団法人ベルマーク教育助成財団評議員としての活動</p> <p>文部科学省独立行政法人文化財研究所評価委員としての活動</p> <p>財団法人平山郁夫シルクロード美術館の評議員としての活動</p> <p>三菱 UFJ 環境財団の理事としての活動</p> <p>8 その他</p>		<p>早稲田大学において、これまで数回の講演を実施。夏季特別講座として、早稲田大学の学生をベトナム、インド等のユネスコ寺子屋事業の現地視察と現地ボランティア活動に引率。事前の研修と事後の報告書作成を指導。</p> <p>早稲田大学ボランティアセンターの運営委員会などの会合に委員として出席。</p> <p>文部科学大臣発令による委員として、総会のほか運営小委員会、選考小委員会、文化活動小委員会、普及活動小委員会に属してこれら委員会の審議に参加。(普及活動小委員会では、委員長代理を務める)左記の二つの委員会の会合に出席。</p> <p>左記の財団の理事として(現在は顧問)、理事会に参加するほか(社)日本ユネスコ協会連盟の活動との連携を計る。</p> <p>評議員として、参画するほかユネスコ活動とユニセフ活動との連携を計る。</p> <p>評議員として、会議に参加するほか同財団の支援によるユネスコ寺子屋事業の実施。(ベトナム、アフガニスタン等)</p> <p>関連の会合に参加するほか、毎年の同研究所の第三者評価作業を行う。</p> <p>同財団の評議会に参加するほか、関連の活動に参画。</p> <p>平成 20 年 3 月に同理事に就任し、環境教育等の企画・実施に参加</p>
--	--	---

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
著書 <研究書>				
1. ユネスコ 50 年の歩みと展望	単	平成8年7月	シングルカット社	著者が 30 年にわたる体験に基づいて書いたユネスコの概論及び 50 年の通史。第一部：ユネスコの創設と日本の加盟、第二部：対立と論争の時代、第三部：ユネスコの未来と日本の協力の構成。付録に略年表。特に、第二部で、米国・英国の脱退に関し、著者自身の直接体験を踏まえ、総会・執行委員会での論争を跡付け、英国・米国での議会審議を引用しつつ、その理由や経緯を緻密に分析し、真相の解明に努めた。 歴史的に大きな動向を把握するとともに、組織論も展開した。ユネスコの知名度は高いが、実像はあまり知られていない。本書は、我が国で初めてのユネスコ概説書でもある。 日本図書館協会および全国学校図書館協議会の選定図書。(永井道雄元文相、中根千枝教授、明石康元国連事務次長、猪口邦子教授ほか、多数の学者、専門家が評価) 278 ページ。 ISBN-938737-25-6C0030P2300E
2. ユネスコ 30 の質問	共	平成16年6月	(株)日本ユネスコ協会連盟	国連専門機関ユネスコの解説書。創設、目的、主要事業等を Q&A の形で編集・作成。編集作成責任者として全体の取りまとめと執筆を行う。日本全国のユネスコ関係者の必携書となっている。(編集責任者) 143pp.
3. 『ユネスコ世界遺産年報 2005 年～2013 年』	共	平成12年～24年	(株)日本ユネスコ協会連盟	毎年、ユネスコの世界遺産に関する最新情報を盛り込んで年報「世界遺産」を編集・出版している。編集責任者として全体の構成等に責任を負うほか、インタビュー記事などの司会役を務めている。
4. UNESCO PROGRAMME ACTIVITIES	共	平成12年	UNESCO BEIJING OFFICE	ユネスコ北京事務所長として、東アジア地域における広範なユネスコ活動を英文で取りまとめて出版。
<翻訳> (単行本) なし				
<テキスト・辞典・教材等> なし				
学術論文 <学会誌等> (審査付) なし				
<大学紀要等>				
1. 多文化共生社会の実現に向けて	単	平成16年10月	『文京学園創立80周年記念論文集 21世紀共生社会に向けて2004年』、文京学院大学	ユネスコの文化多様性を守る諸活動を歴史的に概観。ジョセフ・ナイのソフトパワー論なども論述。

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
学会発表 〈国際学会等〉				
1.UNESCO International Symposium on the Silk Roads 2002	単	平成14年11月	UNESCO International Symposium on the Silk Roads 2002(平成14年11月18～20日,中国・西安)	主たる責任者として実質的に企画・実施した。海外から60名ほどの専門家が出席。最終日の全体会議でコーディネーターを務め、英文による西安宣言をとりまとめ、これを国連事務総長およびユネスコ事務局長に提出。このシンポジウムの様子は、読売新聞全国版でも大きく報道された(平成14年12月10日付け)。(再掲)
2. 東アジアにおけるユネスコ活動と国際理解	単	平成14年6月	国際理解教育学会第12回大会	特定課題研究で発表。同発表は学会紀要に掲載。
3. 「シンポジウム“危機言語”」	単	平成16年1月	日本語学会	日本語学会の招待により、左記のシンポジウムで「文化の多様性」を守るユネスコの活動と少数民族の言語に関する二、三の事例について」発表
4. なぜ新渡戸か？ -“Why Nitobe Now?”Symposium-	単	平成16年6月	NITOBEL 会等6団体による共催シンポジウム	同シンポジウムの事務局として全般的企画と実施に携わるほかシンポジウムの最後に、まとめの短い発表を行った。
5. パーミヤン遺跡保存に関する第3回専門家作業グループ国際会議	単	平成16年12月	ユネスコ及び東京文化財研究所の共催	同国際会議で(社)日本ユネスコ協会連盟がアフガニスタンのパーミアンで建設中の文化財保存センターの目的、事業活動及び進捗状況について英語で発表。
6. 外務省と語る国際交流	単	平成17年1月	外務省主催パネルディスカッション	同パネルディスカッション「日本の魅力発信～地域のソフトパワーを考える」でパネリストとして招待され、ユネスコの活動や大学における国際交流事業などについて発表。
その他 〈執筆〉				
書評				
なし				
翻訳				
なし				
新聞				
北京からニーハオ	単	平成9年5月～平成13年3月	高山市民時報社	急激に変貌を遂げ発展する北京、都市と農村の格差、人々の暮らしや風物、国連機関の活動など、エッセイの形で連載。約100篇
雑誌等				
1. 平和への旅 中国-朝鮮-日本を結ぶ文化の絆	単	平成12年2月	『日本と中国』、日本中国友好協会	平山郁夫ユネスコ親善大使を団長とする第三次の訪朝団の活動を報告。2頁。
2. ユネスコ活動とロータリー活動 『ロータリーの友』(平成17年3月号)に再掲	単	平成16年10月	国際ロータリー第2530地区	同地区大会での記念講演を基に掲載(地区大会記念誌)。
3. 「平山郁夫-東西文化交流の旅路40周年記念-」	単	平成15年9月	『アートトップ』(臨時増刊号)、芸術新聞社	同臨時増刊号に特別記事を寄稿。
〈口頭発表〉				
米国提携校 Saint John's university の招聘を受け、同大学で講演(予定)		平成25年3月		